

NSG

GROUP



NSG グループ

2013年3月期第1四半期決算報告

(2012年4月1日～6月30日)

日本板硝子株式会社
2012年8月2日

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

2

吉川 恵治
代表執行役社長兼CEO

クレメンス・ミラー
代表執行役副社長兼COO

マーク・ライオンズ
代表執行役CFO

本日、2013年3月期第1四半期の決算を発表させていただきましたので、その概要と今後の見通しについてご報告させていただきます。

2013年3月期第1四半期決算報告
(2012年4月1日～6月30日)



アジェンダ

- 要点
- 決算概要
- 通期業績見通し修正
- 事業状況
- リストラクチャリング施策の進捗
- 戦略の進捗
- まとめ

要点：2012年4月-6月



- 当第1四半期の市場環境は当初見通しより大幅に悪化
- 直近の事業状況を反映し、業績見通しを下方修正
- リストラクチャリング施策によるコスト削減効果の発現により営業利益の改善を見込む
- リストラクチャリングおよび生産性改善の施策継続・加速により製造コスト低減
- 今期および来期の第一の優先課題は収益性の回復。第二に成長戦略。
- 長期戦略としては付加価値製品による成長を志向

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

5

当第1四半期決算の要点は以下の通りです。

当社グループを取り巻く市場環境は当第1四半期において大幅に悪化し、グループの営業利益は当初予想を下回りました。

こうした厳しい事業状況を反映し、2013年3月期通期業績見通しを下方修正いたしました。

しかしながら、現在進めているリストラクチャリング施策によるコスト削減効果が徐々に現われ始めており、営業利益は今後改善していくものと見込んでおります。

リストラクチャリング施策を継続して実施するとともにその取り組みを加速化させることにより、事業成功の鍵である製造コストの低減を図っています。

以前に皆様にご説明した将来成長のための具体的なプロジェクトについては現在も引き続き進めていますが、今期および来期の第一優先課題は収益性の回復であり、成長戦略は第二優先事項と位置づけています。

長期的には、当社の先進技術を生かした付加価値製品による事業成長をグループの事業戦略の柱に据えています。

アジェンダ

要点

決算概要

通期業績見通し修正

事業状況

リストラクチャリング施策の進捗

戦略の進捗

まとめ

連結損益計算書



(億円)	13年3月期 4月-6月期	12年3月期 4月-6月期	前年比
売上高	1,312	1,452	-10%**
無形資産償却と個別開示項目前営業利益	6	56	
償却費*	(17)	(20)	
個別開示項目前営業利益	(11)	36	
個別開示項目	(74)	-	
営業利益	(85)	36	
金融費用(純額)	(31)	(37)	
持分法による投資利益	(1)	20	
税引前利益(損失)	(117)	19	
当期利益(損失)	(106)	19	
親会社の所有者に帰属する当期利益(損失)	(107)	16	
EBITDA	79	138	-43%

*ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却のみを考慮

**為替変動を除くと-3%

業績は大幅に悪化した市場環境を反映

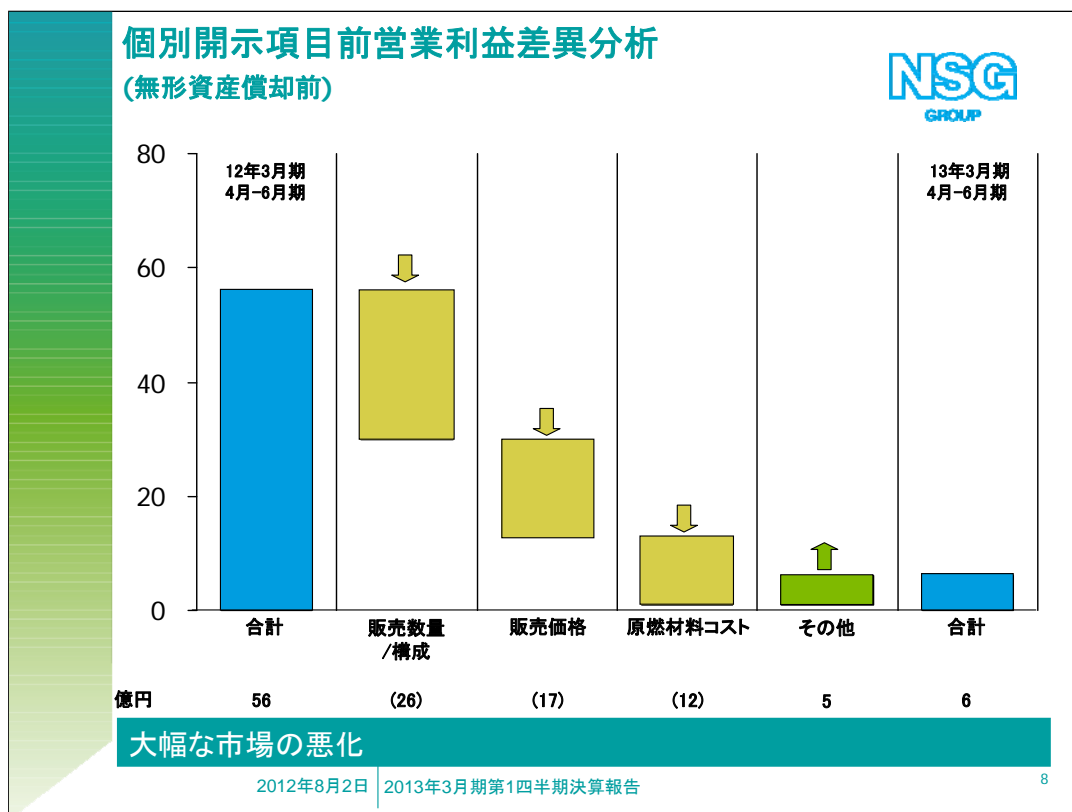
2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

7

グループ売上高は1,312億円。前年同期比10%の減収となりました。円高の進行が売上に影響を与えましたが、為替変動の影響を除けば減収幅は3%となります。

当第1四半期において市場環境が大幅に悪化し、その結果、営業利益は当初見通しを下回りました。

個別開示項目および金融費用後の当期損益は、106億円の損失となりました。



無形資産償却前営業利益の前年同期との差異分析を表しています。

販売数量は低調に推移しました。特に当社グループ連結売上高の大きな部分を占める欧州においてその傾向は顕著になっています。

さらに、需要減少により、原燃材料コスト上昇分を価格へ転嫁できず、販売価格も低迷しました。

個別開示項目



	13年3月期 4月-6月期 (億円)
有形固定資産等の減損損失	(33)
リストラクチャリング費用 (雇用契約の終了にかかる費用を含む)	(47)
その他	6
	<u>(74)</u>

- ・ 減損損失の大部分はイタリアベニスフロート資産
- ・ リストラクチャリング費用 — 2012年6月末までに計1,350人を削減

リストラクチャリング施策を加速

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

9

個別開示項目の主な内訳を示しています。

減損損失の大部分はイタリア・ベニスフロート資産に係る減損損失です。このベニスのフロートラインについては、先日、ホットホールドによる生産の休止を発表しております。

リストラクチャリング施策を計画通り進めており、これまでに合計1,350人を削減しています。

連結キャッシュフロー



	13年3月期 4月-6月期 (億円)
当期利益	(106)
減価償却費	89
運転資本の増減	(41)
法人所得税支払額	(15)
その他	5
営業活動によるキャッシュフロー	(68)
固定資産の取得	(75)
その他	10
投資活動によるキャッシュフロー	(65)
フリーキャッシュフロー	(133)

キャッシュフローは、収益性の低下を反映

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

10

当第1四半期のフリーキャッシュフローは、収益性の低下を反映し、133億円のマイナスとなりました。

運転資本は、季節的要因により第1四半期はマイナスとなります。運転資本に関しては、運転資本改善プロジェクトに着手しており、計画通り改善を進めています。

設備投資は引き続き、有形固定資産減価償却費を下回る水準に抑えています。

主要財務指標(KPI)



	2012年6月末	2012年3月末
ネット借入(億円)	3,592	3,512
ネット借入/EBITDA	8.9x	7.6x
ネット借入/純資産比率	2.6	2.1
	13年3月期 第1四半期	12年3月期 第1四半期
EBITDA/インタレスト・カバレッジ	2.6x	3.7x
営業利益率*	0.5%	3.8%

*ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却のみを考慮

困難な事業状況を反映した主要財務指標(KPI)

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

11

ネット借入残高の増加の主な要因は、前のスライドでご説明した第1四半期におけるキャッシュフローのマイナスによるものです。

困難な事業状況を反映し、収益性に関連する指標は悪化しました。

アジェンダ

- 要点
- 決算概要
- 通期業績見通し修正
- 事業状況
- リストラクチャリング施策の進捗
- 戦略の進捗
- まとめ

2013年3月期通期業績見直し修正



(億円)	2013年3月期 上半期	2013年3月期 下半期	2013年3月期 通期	2013年3月期 当初見直し
売上高	2,600	2,700	5,300	5,600
無形資産償却と個別開示項目前 営業利益	10	90	100	220
営業利益	(130)	(50)	(180)	(40)
税引前利益	(190)	(110)	(300)	(140)
当期利益	(170)	(100)	(270)	(100)
親会社の所有者に帰属する当期 利益	(170)	(110)	(280)	(110)

*ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却のみを考慮

直近の事業状況を反映し、通期業績見直しを下方修正いたしました。

リストラクチャリング施策によるコスト削減効果が徐々に現われ始めており、今年度下期は、その効果による業績改善を見込んでいます。

当会計年度中での市況の大幅な改善は想定しておりません。

2013年3月期通期業績見通し修正



- 市場環境は当初見通しより大幅に悪化
 - 欧州における需要が大きく減少
 - 供給過剰により価格が軟化
- 南米市場の成長率減速
- ソーラー市場は依然低調
- リストラクチャリング効果は今年度下期に発現

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

14

欧州において市場環境が当初見通しより大幅に悪化したことが、業績見通しを修正した主な理由です。

需要減少に伴い販売数量が急速に減少し、ガラス市場に供給過剰と価格環境の悪化をもたらしました。

南米市場は成長率が減速しています。しかしながら、中期的には南米市場の見通しは依然として明るいと考えています。

ソーラー市場は依然として低調が続いています。

今年度下期に業績改善を見込んでいますが、これはリストラクチャリングによる収益性改善効果50億円によるものです。

アジェンダ

要点

決算概要

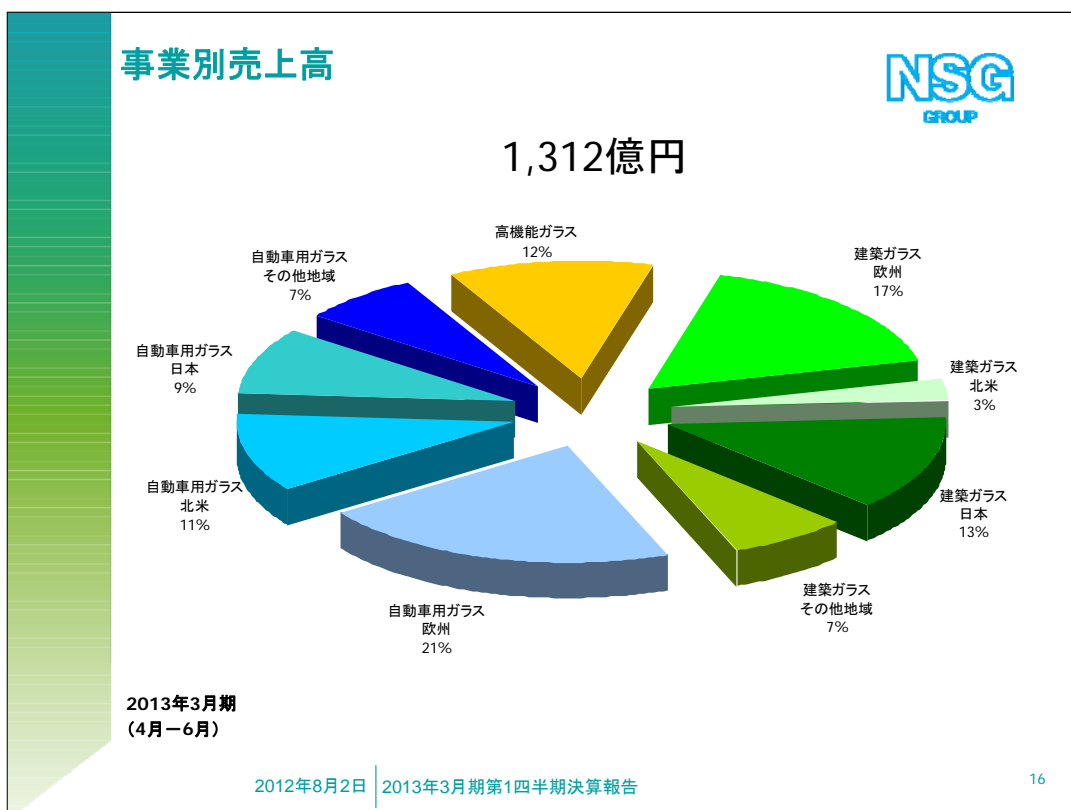
通期業績見通し修正

事業状況

リストラクチャリング施策の進捗

戦略の進捗

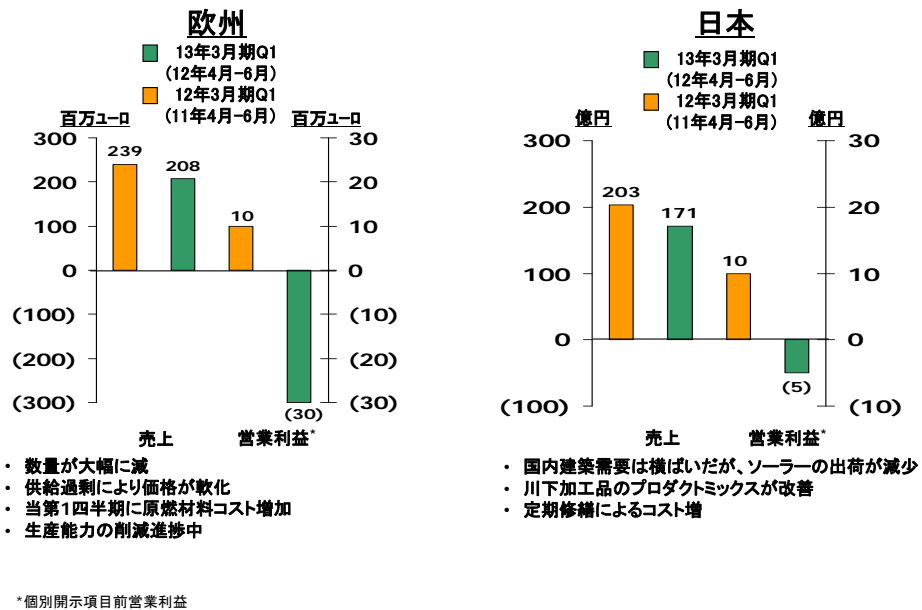
まとめ



事業別売上高を示したものです。

地域別には、欧州がグループの連結売上高全体の約40%、日本が30%、北米が15%、その他地域が15%を占めます。

建築用ガラス事業 2012年3月期第1四半期との比較



2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

17

建築用ガラス事業です。

それぞれ現地通貨ベースでの前年同期との比較を表しています。グラフの左側が売上高、右側が営業利益です。

欧州における建築用ガラスの売上高は、数量の大幅な減少により前年同期を下回りました。

その結果、供給過剰となり価格が軟化し、原燃材料コストの上昇分の販売価格への転嫁ができませんでした。

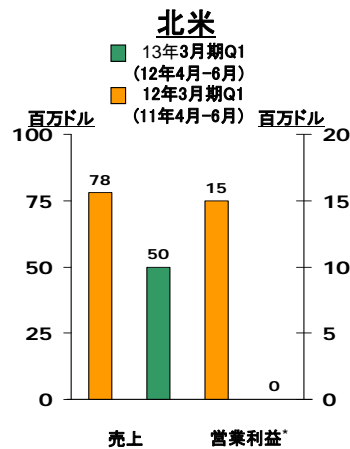
こうした状況を受けて、ガラス業界では生産能力の削減が進んでいます。

日本の売上高も前年を下回りました。国内の建築需要は横ばいで推移したものの、ソーラー市場の需要低迷を受けて、ソーラー用ガラスの出荷が減少したためです。

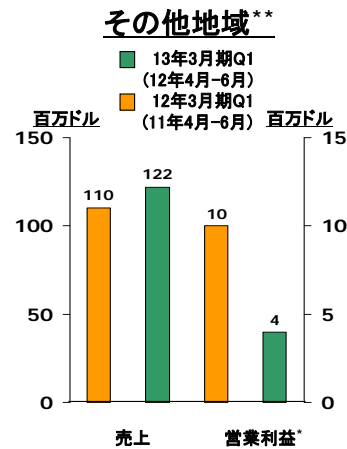
当社が日本に保有するフロートラインのうち1基で、当第1四半期に定期修繕を実施しました。

川下事業の業績は、プロダクトミックスの改善により対前年で改善しました。

建築用ガラス事業 2012年3月期第1四半期との比較



- ・ 国内建築需要は横ばいだが、ソーラーの出荷が減少
- ・ 生産能力の削減を発表



- ・ 当四半期を通じたベトナムでのソーラー用TCOガラス生産増により増収
- ・ 南米市場は需要減速が継続
- ・ 東南アジア市場は引き続き厳しい環境継続

*個別開示項目前営業利益

**その他地域は、アルゼンチン、チリ、中国、マレーシアおよびベトナム

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

18

北米においては、売上・営業利益ともに前年同期を大幅に下回りました。

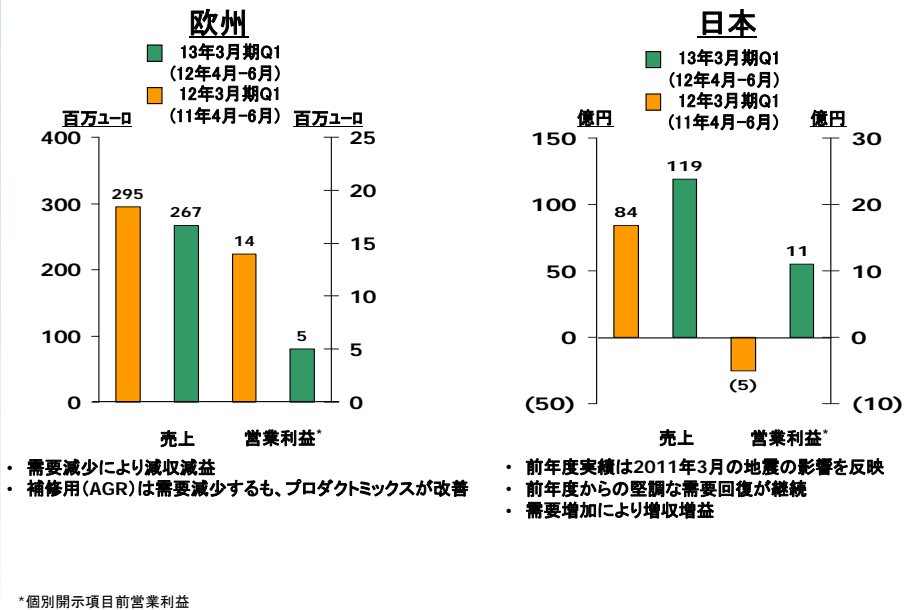
国内建築需要は横ばいで推移しましたが、ソーラー用ガラスの出荷減少の影響を大きく受けたためです。

欧州と同様、北米においても生産能力の削減をすでに発表しています。

その他地域の売上高は、ベトナムのソーラー向けフロートラインが当第1四半期を通じて売上高にフルに寄与したため、増収となりました。

しかしながら、全体的な市場状況は依然として厳しく、東南アジア市場は価格が軟化、南米市場では需要減速が続いています。

自動車用ガラス事業 2012年3月期第1四半期との比較



2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

19

自動車用ガラス事業です。

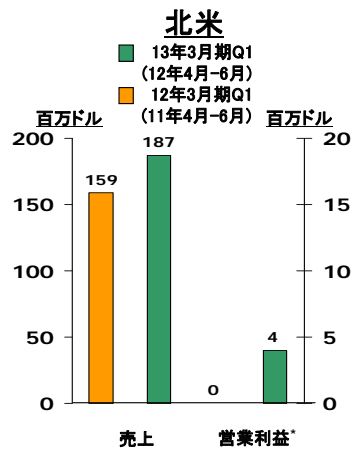
欧州の新車向け(OE)部門は、需要減少により前年同期比で減収減益となりました。

補修用(AGR)部門は、需要は減少したものの、プロダクトミック改善によるメリットを享受しました。

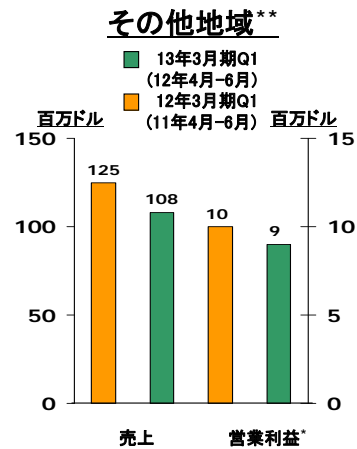
日本においては、東日本大震災の影響を受けた前年度と比較し、業績は大きく改善しました。

前年度からの堅調な市況回復が当第1四半期に入っても継続し、増収増益となりました。

自動車用ガラス事業 2012年3月期第1四半期との比較



- ・ 需要増加で増収増益
- ・ 補修用(AGR)は需要の低下



- ・ 南米市場は厳しい状況
- ・ 自動車販売の減少により減収減益

* 個別開示項目前営業利益

** その他地域は、ブラジル、アルゼンチン、マレーシアおよび中国

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

20

北米の新車向け(OE)部門は、市場の堅調な需要増加により、前年同期比で増収増益となりました。

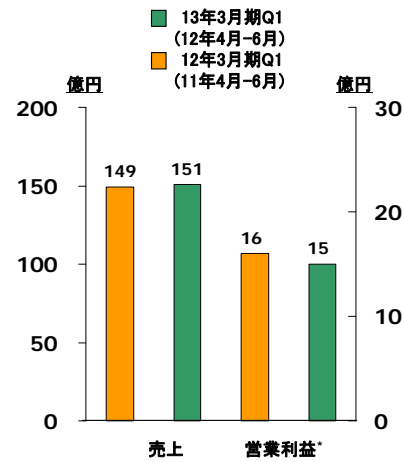
補修用(AGR)市場の需要は低下しましたが、欧州と同様、プロダクトミックスが改善しました。

その他地域は、減収減益となりました。南米において、経済の減速により消費者の自動車購入が減少し、厳しい市況が続いたことが主な要因です。

高機能ガラス事業 2012年3月期第1四半期との比較



- ・ スマートフォンやタブレットPCの消費者需要は旺盛
- ・ エンジンタイミングベルト用グラスコードの売上は日本で増加したが、欧州では自動車業界の状況に沿って軟化
- ・ プリンター/スキャナー市場は改善



*個別開示項目前営業利益

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

21

高機能ガラス事業の業績です。

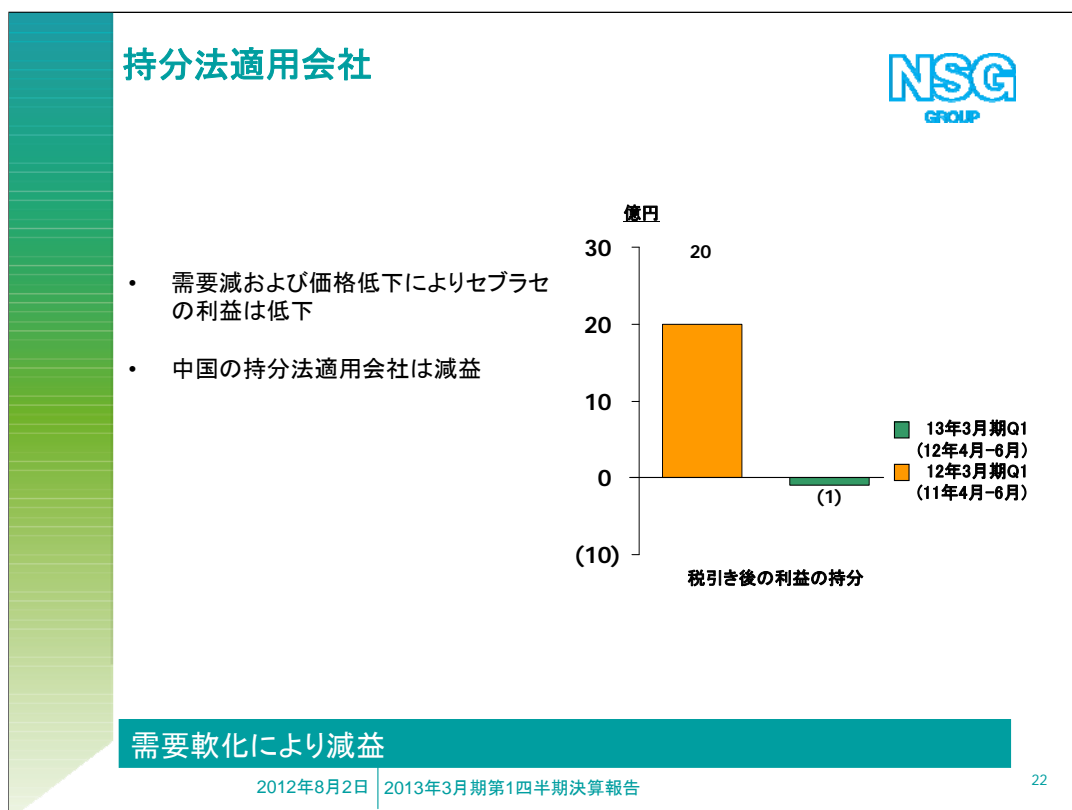
売上・営業利益ともに前年同期並みでした。

スマートフォンやタブレット型パソコンに対する消費者需要は総じて好調でした。

エンジンタイミングベルト用グラスコードの売上は日本で増加しましたが、

欧州では自動車用ガラス事業の状況と同様で、減少しました。

多機能プリンター向け部材の需要は改善しました。



持分法による投資損益です。

これらの持分法適用会社は主に建築用ガラス事業を行っています。建築用ガラス事業子会社と同様、厳しい市況の影響を受けました。

ブラジルにおける合弁事業であるセブラセ社、および中国の合弁事業の利益は、前年同期に比べて減少しました。

アジェンダ

- 要点
- 決算概要
- 通期業績見通し修正
- 事業状況
- リストラクチャリング施策の進捗
- 戦略の進捗
- まとめ

リストラクチャリング施策概要



収益性改善目標: 250億円

実施項目

- ・ 生産能力の削減
 - ・ 欧州建築用フロート生産能力を30%削減
 - ・ 北米建築用フロート生産能力を25%削減
- ・ 間接費削減
 - ・ 25%の上級管理職人員削減
- ・ 生産効率化施策を実行中
- ・ キャッシュフロー改善への取り組み
 - ・ 運転資本の削減
 - ・ 有形固定資産償却費以下での設備投資
 - ・ ノンコア資産の売却

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

24

リストラクチャリング施策の概要をまとめました。

年間250億円の収益性改善という明確な目標を設定しています。

そのための主要なアクションの1つが生産能力の削減です。建築用フロート生産能力の削減を既に発表しています。欧州では30%、北米では25%の削減となります。

次に、大幅な間接費削減です。上級管理職人員の25%削減を実施しています。

さらに、多岐にわたる生産性改善策を実施しています。

並行して、キャッシュフロー改善については、3つの側面から取り組んでいます。

運転資本の大幅な削減を進めています。

設備投資は引き続き有形固定資産償却費の水準以下に抑えていきます。

必要に応じて、ノンコア資産の選択的な売却も実施します。

リストラクチャリング施策 業績影響



効果 (億円)	FY13	FY14	FY15	3年間計
生産能力削減	10	40	70	120
間接費用削減	30	90	120	240
生産性改善	10	20	60	90
計	50	150	250	450

費用 (億円)	FY12	FY13	FY14	FY15	3年間計
リストラクチャリング費用	30	110	110	-	250
有形資産減損	-	70	20	-	90
計	30	180	130	-	340

- 2014年3月期までに3500人の人員削減を計画
 - 内2500人を2013年3月末までに削減予定

コスト削減効果が増加し、250億円/年を見込む(当初は200億円)

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

25

リストラクチャリング施策に伴う効果と費用をまとめました。

既に発表しているリストラクチャリング施策の範囲を拡大し、新たな追加施策を実施します。施策完了後のコスト削減効果として、当初想定していた年間200億円から50億円多い、年間250億円を見込んでいます。

スライドの表は、リストラクチャリング施策により見込まれるコスト削減効果の内訳を、3つの主要項目別に示したものです。

リストラクチャリング施策の実施期間としては2年間で予定しています。

2014年3月末までに3,500人の人員削減を予定しています。

この内の1,350人を2012年6月末までに削減しており、今期末時点では合計で2,500人の人員削減が完了している予定です。

当初計画からの変更



- 更なる工場設備等の閉鎖を見込む
- 工場設備等の閉鎖により資産減損費用の増加を見込む
- リストラクチャリング費用は当初通り250億円
- 生産性改善効果を確認
- コスト削減効果が増加し、250億円/年を見込む(当初は200億円)

リストラクチャリング施策の範囲を拡大し、さらなる工場設備等の閉鎖を予定しております。

閉鎖計画の一部はすでに発表しております。

この結果、さらなる工場設備等の閉鎖により、資産減損費用の増加を見込んでおります。

ただし、リストラクチャリング費用は当初通り250億円の見込みです。

また、多岐にわたる生産性改善効果を確認しております。

2015年3月期以降、年間250億円のコスト削減効果を見込んでおります。これは、当初予想の200億円から50億円増加しました。

生産能力の削減



取り組み

- ・ 欧州では、フロート生産能力を建築用ガラス需要減少に合わせて調整
- ・ ソーラー需要減少に合わせてフロートおよびコーティング能力を調整
- ・ 欧州では、自動車用ガラス加工能力を需要減少に合わせて調整
- ・ 南米では、成長鈍化にあわせて生産能力計画を再検討

現在の需要水準で、当社の生産ネットワークがフル活用され、かつ利益を出すことを目指す

「生産能力の削減」に関する取り組みをまとめました。

当面の優先課題は、欧州のフロート生産能力を建築用ガラスの需要減少に合わせて調整することです。

また、ソーラー需要の減少に合わせてフロートおよびコーティング能力を削減する必要があります。

欧州では、自動車用ガラス加工能力についても需要減少に合わせて調整を図っています。

同時に、南米では、市場の成長鈍化に合わせて生産能力計画を再検討しています。

これらの施策により、現在の需要水準で、当社の生産ネットワークがフル活用され、かつ利益を創出することを目指します。

生産能力の削減



本日までの進捗状況

欧州	フロート(建築/ソーラー)能力削減 3ライン :英国, ドイツ, イタリア ≈ 欧州建築用フロート生産能力30%に相当
	川下加工拠点閉鎖 : フランス, 北欧
	自動車用ガラス加工能力削減 加エラインの一部閉鎖 : ドイツ, イタリア
北米	フロート(建築/ソーラー)能力削減1ライン:ノースカロライナ州 ≈ 北米建築用フロート生産能力25% に相当

「生産能力の削減」に関する本日までの進捗状況をまとめました。

欧州においてフロート3ラインの生産能力削減を発表いたしましたが、これは当社グループの欧州の建築用フロート生産能力の約30%に相当します。

フランス、北欧地域では建築用ガラスの川下加工拠点も閉鎖いたしました。

自動車用ガラスの加工能力については、ドイツとイタリアで加エラインの一部を閉鎖いたしました。

北米では、フロート1ラインの休止を発表しています。

間接費用削減



取り組み

- 地域別組織にして本社管理機能軽減
- 非主力業務の外注化 (例 設備保守管理)
- サポート部門の統合および低コスト国への移転
- 上級経営層の報酬削減

「間接費用削減」に関する取り組みをまとめました。「間接費用」とは、経営および管理活動に係る費用をいいます。

地域別組織体制とし、本社管理機能を軽減しました。

非主力業務は必要に応じて専門業者への外注を進めています。

現在各国で遂行されているサポート業務は、統合し、低コスト国に移転します。

最後になりますが、上級経営層の報酬を削減いたしました。

間接費用削減



取り組みの通知および計画

- 地域組織体制の実行
- マネジメント層の人員削減:
 - 日本:80名が9月末までに退職
 - 英国:90名が2012年3月/4月に退職し、さらに90名が2013年3月末までに退職する見込み
- 欧州のサポート部門をポーランドへ今年12月までに移転
- 欧州の設備保守管理についてアウトソーシング化を進行中
- 全社で25%の上級管理職を削減

間接費用削減に関し、すでに発表・計画されている取り組みの一部をまとめました。

当社グループは地域組織体制に移行いたしました。

日本では、2012年9月末までに80名のマネジメント層の人員が退職する予定です。

英国でも、2012年4月までに90名が退職し、2013年3月末までにさらに90名が退職する見込みです。

欧州のサポート部門を統合し、ポーランドに移転するプロジェクトを進めており、2012年12月までに移転を完了する計画です。

欧州での設備保守管理のアウトソーシング化も進行しております。

上級管理職は全社で25%減少します。

製造コスト削減



本日までの進捗

- **新規の生産能力増強は低コスト国中心**
 - 自動車ガラス事業(OE) - ポーランド、南米(立ち上げ中)
 - 自動車ガラス事業(AGR) - メキシコ(稼働中)
 - ソーラー用コーティングガラス - ベトナム(稼働中)
- **アウトソーシング化**
 - 一部の組立工程のアウトソーシング化を進行中
- **生産性改善**
 - 製造不良ロスおよびコストの削減、主要原燃材料の使用量節減
 - 調達においては代替的な原材料・サービスを重視

新規の生産能力増強は低コスト国が中心となります。

欧州においては、自動車用ガラス事業の生産能力の東欧へのシフトを進めています。ポーランドの自動車用ガラスの新工場は立ち上げに向け、計画通りに準備が進んでいます。

ブラジルの自動車用ガラスの新工場も生産立ち上げ中です。この市場の将来性については依然として自信を持っております。

メキシコの新工場は既に稼働中で、北米補修用ガラス市場に製品を供給しています。

ベトナムのソーラー用フロートラインも本格稼働しています。

組立工程の一部をアウトソーシングし、専門業者に委託することでコスト削減を図りました。

生産性改善においては、製造不良ロスおよびコストの削減や、主要原燃材料の節減に重点的に取り組んでいます。

調達における取り組みの中心は、代替的な原材料・サービスの使用です。

リストラクチャリング施策のまとめ



- 生産能力の削減
 - 欧州建築用フロート生産能力を30%削減
 - 北米建築用フロート生産能力を25%削減
- 間接費削減
 - 全社で25%の上級管理職を削減
 - 人員削減予定は、3,500名(～2014年3月末)
 - 上級経営層の報酬削減
- 生産効率化および購買における取り組み
- キャッシュフロー改善

まとめますと、当社のリストラクチャリング施策には3つの主要項目があります。

生産能力の削減、間接費削減、生産性改善および購買における取り組みの3つです。

それぞれについて、これまでにかなりの進捗がありましたが、まだすべきことはたくさんあります。施策の効果は、早期に発現し始める見込みです。

これらと並行して、キャッシュフローの改善にも積極的に取り組んでいます。運転資本の削減、設備投資の削減、ノンコア資産の売却を中心に進めています。

アジェンダ

- 要点
- 決算概要
- 通期業績見通し修正
- 事業状況
- リストラクチャリング施策の進捗
- 戦略の進捗
- まとめ

戦略的方向性(1)



- 戦略は昨今の経済状況に合わせて調整
- 当面は収益性の回復が成長に優先
- 以下の点に注力
 - キャッシュ - 創出と支出管理
 - コスト - 削減施策
 - 設備 - 余剰能力を削減
- 経済状況好転に向けての営業レバレッジ改善(損益分岐点の改善)
- 成長分野(付加価値製品)への選択的投資(CAPEX, R&D)

当面は収益性の回復が成長に優先

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

34

今後に関しては、まず、当社グループの戦略を新たな経済環境に適応したものにすることが喫緊の課題です。

当面の優先課題としては、成長よりも収益性の改善により重きを置いて取り組んでまいります。

キャッシュ創出力の改善、コストベースの低減、各事業分野の市場需要レベルに合った生産能力に調整すること、この3つに焦点を当てて取り組んでいます。

これらを達成することにより、将来市場が好転した時に大きなメリットを享受することができます。

当社の短期的な優先課題は、収益性の改善です。しかしながら、重要な成長分野への選択的投資は継続して行ってまいります。付加価値製品は引き続き、当社の戦略的プロダクトミックスを構成する重要な要素です。

戦略的方向性(2)



この2年間のリストラチャリングの後、経済の回復を享受し、成長軌道に戻るべく、以下を目指す。

- コストベースの引き下げおよび稼働率の改善
- 最小、機敏な組織体制で市場の変化にすばやく対応
- 償却前営業利益率目標 : > 10%
- EBITDA目標 : 倍増 2016年3月期
- 付加価値製品へ注力した事業ポートフォリオ

リストラチャリング施策の実施期間としては2年間で予定しています。

リストラチャリング完了後には、無駄のない組織となり、市場の変化に迅速に対応できるようになります。

営業利益率の目標を、10%超と設定しています。

EBITDAは、2016年3月期までに少なくとも倍増を目指します。

事業ポートフォリオについては、今後も付加価値製品への重点化を進めます。

戦略的方向性(3)



-世界のトレンドは高付加価値製品へと向かっており、
顧客からの重要セグメントにおけるNSGグループが果たす役割への期待も大きい

Our Products	Applications	Growing market expectations
UFF	スマートフォン、タブレットpc	<ul style="list-style-type: none"> 無欠点の薄板ガラス 新組成ガラス
SLA	プリンター(多機能、小型)	<ul style="list-style-type: none"> LED プリントヘッド
グラスコード	自動車用タイミングベルト	<ul style="list-style-type: none"> 高抗張力
バッテリーセパレータ	次世代電池	<ul style="list-style-type: none"> 不燃性材料
自動車用ガラス事業	自動車用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> 軽量化 ソーラーコントロール 形状複雑化 付属機能(例 ヘッドアップディスプレイ, センサー) モジュール一体化
建築用ガラス事業	Low-E/ソーラーコントロール	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー/エコガラス
コーティングガラス	太陽電池モジュール	<ul style="list-style-type: none"> 高変換効率

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

36

将来的に、当社グループの将来の成長において重要な役割を担うことが期待される付加価値製品の一部をご紹介します。

最初に、高機能ガラス事業です。

高品質の超薄板ガラス製品は、今後もスマートフォンやタブレットPCなどの成長分野の重要な部材であり続けると考えています。

当社のセルフロックレンズアレイ(SLA)は小型プリンターに搭載されます。グラスコードは自動車用エンジン用の高強度タイミングベルトに使用されます。また、次世代電池には、高性能な不燃性バッテリーセパレータが必要となります。

自動車用ガラス事業では、今後、ガラス形状の複雑化が進み、さまざまな付加価値機能を伴い、ガラスはますます高機能化していきます。

建築用ガラス事業では、環境に対する配慮から、省エネ型建材、エネルギー変換効率の高い太陽光発電モジュールに対する需要が拡大し、それに伴い、コーティングガラスの重要性が今後も高まっていきます。

戦略のまとめ



- 当面の課題は収益性の回復が成長性に優先
- リストラクチャリングを前倒しで実施し、将来の市場変動の中でも柔軟性のある強靱な企業体質を構築する
- 付加価値製品分野における様々な成長機会
- 明確な実行計画とこれによる財務状況および業績の改善

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

37

NSGグループの戦略的方向性をまとめますと、当面の優先課題は収益性の改善です。

完了後には、将来の市場好転時に大きなメリットを享受できる体制となっています。

また、付加価値製品分野におけるさまざまな長期的な成長機会が広がっています。

当社グループは、明確な実行計画に基づいてこの戦略を遂行し、当社の財務状況および業績の改善を実現してまいります。

アジェンダ

- 要点
- 決算概要
- 通期業績見通し修正
- 事業状況
- リストラクチャリング施策の進捗
- 戦略の進捗
- まとめ

まとめ



- 当第1四半期の市場環境は当初見通しより大幅に悪化
- 直近の事業状況を反映し、業績見通しを下方修正
- リストラクチャリング施策によるコスト削減効果の発現により営業利益の改善を見込む
- リストラクチャリングおよび生産性改善の施策継続・加速により製造コスト低減
- 今期および来期の第一の優先課題は収益性の回復。第二に成長戦略。
- 長期戦略としては付加価値製品による成長を志向

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

39

本日の要点をまとめました。

当社を取り巻く市場環境は当第1四半期において大幅に悪化し、営業利益は当初予想を下回りました。

このため、2013年3月期通期業績見通しを下方修正いたしました。

しかしながら、現在進めているリストラクチャリング施策によるコスト削減効果が徐々に現われ始めており、営業損益は今後改善していくものと考えております。

収益改善に焦点を定め、リストラクチャリング施策を加速化しています。

現在当社が置かれた環境は厳しいものですが、長期的な見通しは明るいものと考えております。当社グループの事業は今後も将来展望の明るい産業です。

長期戦略としては、当社の先進技術を生かした付加価値製品による事業成長を目指してまいります。

以上で概要説明を終わります。

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。

日本板硝子株式会社

補足資料

事業部門別・地域別売上高
(2012年4月1日～6月30日)



(億円)	日本	欧州	北米	その他地域	合計
建築用ガラス	171	214	40	98	523
自動車用ガラス	119	276	150	87	632
高機能ガラス	91	15	3	42	151
その他	3	3	0	0	6
合計	384	508	193	227	1,312

償却前 営業利益*
(2012年4月1日～6月30日)



(億円)	日本	欧州	北米	その他地域	合計	営業利益率
建築用ガラス	(5)	(31)	0	3	(33)	-6%
自動車用ガラス	11	5	3	7	26	4%
高機能ガラス	10	3	0	2	15	10%
その他	(8)	6	0	0	(2)	
合計	8	(17)	3	12	6	0%
営業利益率	2%	-3%	2%	5%	0%	

*: 無形資産償却と個別開示項目前営業利益

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

43

償却後 営業利益*
(2012年4月1日～6月30日)



(億円)	日本	欧州	北米	その他地域	合計	営業利益率
建築用ガラス	(5)	(31)	0	3	(33)	-6%
自動車用ガラス	11	5	3	7	26	4%
高機能ガラス	10	3	0	2	15	10%
その他	(8)	(5)	(3)	(3)	(19)	
合計	8	(28)	0	9	(11)	-1%
営業利益率	2%	-6%	0%	4%	-1%	

*: 個別開示項目前営業利益

2012年8月2日 | 2013年3月期第1四半期決算報告

44

為替レート



	2012年3期 4月-6月期	2013年3月期 4月-6月期	2013年3月期 通期予想
期中平均為替レート:			
円/英ポンド	133	127	125
円/ユーロ	118	103	100
円/米ドル	82	80	80
期末為替レート:			
円/英ポンド	129	125	
円/ユーロ	116	101	
円/米ドル	80	80	

NSG

GROUP